

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0191500115), 法人名 (有限会社 ハマダコーポレーション), 事業所名 (グループホーム おもひで・桜(1階)), 所在地 (北海道茅部郡森町字森川町223-21), 自己評価作成日 (令和5年5月22日), 評価結果市町村受理日 (令和5年7月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和風インテリアに懐かしい雰囲気を残し、落ち着いた環境を作っている。また、日頃から掃除を行い、清潔を保っている。見学に来た方等、外部からの訪問者に綺麗な所ですね。と言われることが多い。毎日の掃除に加え、感染症対策に1日2回のアルコール消毒、換気を徹底している。現在は、感染症予防の為、外出は自粛しているため、行事やお誕生会の他に食事で楽しんでいただけるよう工夫している。面会も感染症の流行をみながら、玄関での面会やウッドデッキから面会する等、少しでも顔を見られるよう工夫している。面会に来られない遠方のご家族には、電話で近況を伝えたりしている。感染症予防の為、地域との交流の機会が持てないが、運営推進会議や認定審査会の参加、他の事業所と電話をする機会があった時などに情報交換している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191500115-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年6月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR森駅より徒歩15分程の森川地区に位置し、古くからの家屋が並んでいる閑静な住宅地に立地している。建物は木造の2階建てで、和風を基調とした朴訥とした佇まいの古民家風で、どこか懐かしさを感じる造りとなっている。運営法人は長年、函館で複数のグループホームを運営しており、地域の医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めると共に、職員の介護力向上に力点を置き、統括部長を中心とした事業所での各種委員会活動の内容充実や外部研修への積極的参加、資格取得に関しても支援する取り組みがある。今春以降は、コロナ禍中で出来なかった地域での交流や「おもひで」作り、外出行事等、職員間で話し合っていた多くの計画があることから、その実現が望まれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の人格を尊重し、その人らしさを支えこの地域で「おもいで」を作っていく理念を掲げ毎日思いを1つにし、実践に繋げている。	事業所理念を各所に掲示し、日常的に共有している。管理者を中心に、申し送りや内部研修の場で理解を深めており、職員は日々その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	町内会に所属している。現在、感染症予防の為、町内活動は自粛しているが、機会があれば参加したいと思っている	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、近況報告、挨拶を交わすことで地域町内会との関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に悩む方々へ、認知症介護のアドバイスをしたり、相談を随時受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や要望を聞き、サービスの向上を目的とした意見交換をしている。会議の内容は職員間で共有し、サービスの向上・改善に努めている	運営推進会議は行政や包括、地域代表、必要に応じて消防職員等の参加で定期的に行われており、行事や研修、職員の動向等を報告して意見や検証を受け、サービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の介護保険係や地域包括支援センターに相談し、アドバイスを貰ったり、情報を得る等、連携をとり協力体制を築いている	役場、地域包括支援センターからは、主に運営推進会議や電話で助言、指導を得ている。また、事業所の運営状況等の情報交換を行い、開かれた事業所作りに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングやカンファレンスの際に転倒の等のリスクに対して介護上の工夫を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。3か月毎に身体拘束廃止委員会を行い、委員会が中心となり働きかけている	身体拘束禁止委員会を設置し、定例で開催しており、内容について全職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、虐待を含め、内部研修の機会等で具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が中心となり、言葉遣いやケアの状況により指導したり、全員で討議している。また、入居者様の身体及び精神状態の細かい変化に気づけるよう日々観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方はいないが、随時対応できる体制になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をかけ余裕のある時間で行い、サービス内容等説明し、その都度、疑問点等ないか確認している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や来訪時等、積極的に働きかけ、気軽に話して頂ける雰囲気作りをしている。また、信頼関係の構築に努め、意見や要望を聞き、運営に反映させている。重要事項には、受付窓口、責任者の電話番号、第三者機関の相談窓口も掲示している	通例では、主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、運営やケアプランに反映している。現在は個別のお便りの他、電話、窓越しでの面会等、情報交換の場を設定し、意見を得て運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての意見や提案は統括部長や管理者がまとめて伝えている	職員会議の場で職員の気付きや運営上の意見等を受け止め、運営や個々の資質向上に活かしている。また、人事考課の過程で統括部長、管理者が個別の意向・目標の達成具合を職員から聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の努力・勤務状況を把握し、職場環境を整備しようと努力している。また、気分転換できるよう、連休や希望休をとってもらっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に合わせた研修に参加してもらい、受講後は報告書を提出し他の職員と共有することで知識・技術向上に努めている。また、国家資格受験の応援にも努め、働きながら介護福祉士を受験できる環境を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や勉強会等の機会がある時は、意見交換等をし、サービスの向上に繋げるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まったら、出来るだけ来訪して頂き、居室等全体の雰囲気を見て貰っている。又、管理者が自宅や施設を事前に訪問し、本人と話す機会を作り、入居前に不安がないようにしている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まったら、連絡を取り合い、御本人と一緒に来訪して貰ったり、自宅訪問に立ち会って貰い、不安や要望を話し合う機会を設け安心できるようにしている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・介護支援専門員は、御本人・家族に事前に情報収集をし、他サービス事業者や病院からも情報を得て、よりよいサービスを提供できるようにしている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人のできることを生かし、一緒に家事や食事をする、外出する等ともに過ごす家族のような存在になれるよう努めている。又、一方的なケアにならないよう相手の思いや立場を大切にしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来訪時等に日頃の様子を伝え、家族からの要望を聞き、時には入居者様に安心して貰えるよう話をして頂く等、職員と共に入居者様を支えていける環境を作っている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会も可能で、馴染みの方との環境を維持できるよう支援している。入居時は馴染みの家具等あれば持ってきて頂いている	馴染み、希望する場所への訪問は、感染防止に留意しながら、職員同行や家族の協力を得て、想いに添える様、支援している。来訪が難しい場合は、手紙のやり取りや電話の取り次ぎ等で関係継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の相互関係に配慮し、性格や習慣等、細かく把握し良い関係作りが出来るよう支援している。トラブル時は早急に原因を把握し助言・仲介に入り、双方が不快な思いをしないよう関わっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去や入院になった方のお見舞いに行ったり、ご家族と今後の事を話し合ったり、相談受付等、関係を断ち切らずに保つようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	仕草や表情・行動等、様々な方向から思いをくみ取り、困難な方には、家族から希望や要望・意見を聞き、その方の立場になって検討・支援している。	職員は、ケア全般において介護者側の都合になっていないか、定期的に検証しながら、利用者一人ひとりの想いや意向を聞き取り、応えるよう努めている。また、個々の誇りや個性を損なうことのないよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、御本人・ご家族に生活歴を聞き情報収集をし、大きく生活が変化しないよう個々の暮らしを大切にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の人格を尊重し、出来ること、出来ないことを把握できるよう観察、記録に残し情報の共有と必要なことを支援し現状の能力を総合的に判断しケアしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活状況を申し送りし、日誌や記録に記入している。ご本人・家族の意見や要望を聞き、カンファレンスを開き現状にあった計画を作成し、変化があった時は見直しを行っている	本人、家族の希望を取り入れ、介護記録を基に職員による日々のをユニット会議の場で検討し、介護計画を作成している。状態の変化があれば、都度見直し、現状に則した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録や日誌に日々の生活の様子を記入し、ケアプラン項目の記入もし、実践や見直しに活かし、職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や家族の希望、かかりつけ医への受診、買物の送迎等、柔軟な対応を出来るようにしている。様々なニーズに対し、職員間で話し合いサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事で出かけるときは、事前に連絡している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・家族が希望するかかりつけ医がいる場合は継続受診が可能。医療連携している主治医の往診も行っている為、24時間診て貰える体制も整えている	希望するかかりつけ医は本人や家族の意向を尊重しているが、状況に応じて協力医の往診や訪問看護も検討し、24時間オンコール体制で安心感のある医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している病院の訪問看護師へ報告したり、月1回の訪問看護日に相談したり、重度化にならないよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は、職員も付き添い、情報提供し今後の方針等、医師や他職員と相談している。今後の方向性を相談員と話す等、積極的に関係作りをしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携している医師とは24時間体制で連絡・相談ができる。終末期の際は細かく指示を貰い、出来ること・出来ないことを明確にし家族に文書による説明・同意を得ている。職員間でも方針・情報を共有している	契約時には書面で看取りの指針を説明し、希望があれば最後まで支援する旨同意を得ている。重度化・看取りの指針は、利用者にとって適切な対応になるよう、チームとして支援に取り組む事としており、職員は定期的に看取りについて、内部研修で学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法の講習を職員全員受講している。又、AED設置、緊急マニュアル作成しており、必要時、主治医からアドバイスを貰っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立ち合いで避難訓練を予定している。スプリンクラー設置している	消防署の指導・協力を得ながら、定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。冬季想定暖房器具や備蓄品、近隣住民との協力体制も含め確認を行い、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重し言葉使いや態度に注意している。排泄は職員間で暗号で伝えプライバシーに配慮している	職員は日々の接遇や言葉使い、望ましいケアについて職員本位の表現とならぬよう定期的に話し合っている。不適切と思われる対応については、都度、その場で改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	状態に合わせた選択をし、入居者様の希望や意見を尊重し自己決定できる環境と働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の会話や表情・体調から思いをくみ取り支援している。出来るだけ、希望に添えるよう様々なことに対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温、好みに配慮しながら、おしゃれを楽しんでもらえるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理をしたり、片付けが出来る様にしている。季節の食材を取り入れたり、行事に合わせた献立、誕生日には好物を提供している	食事は個々の嗜好に合わせており、栄養バランス、食べやすさ(形態)に留意している。料理の過程や下膳、テーブル拭き等、体調や体力に合わせて、お手伝いをお願いして、食事の時間が楽しみとなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、不足時は好物を提供したり、補食やゼリーで補っている。又、咀嚼や嚥下機能の状態に合わせて摂取しやすい形態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後口腔ケアをしている。個々にあった歯科用品を使い、気分や体調に配慮したケアをしている。口腔内の異常や義歯の不具合は協力医に診て貰っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録し、個々に合った排泄パターンを把握しトイレサイン等からもトイレ誘導のタイミングを計り、汚染を少なくし、トイレでの排泄を促している	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、水分や乳製品、運動、マッサージを取り入れる等、自然な排泄となるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を記録し、水分摂取や乳製品、オリゴ糖、腹部マッサージ施行に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同性介助を希望した場合は同性で対応できるように配慮している。体調に合わせた時間帯で入浴してもらっている	湯温や担当職員、時間帯等、可能な限り利用者の希望に沿えるようにしている。拒否のある場合も、利用者の気持ちに寄り添い、声掛けに工夫しながら、心地よく入浴出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠や生活パターンに合わせて、季節・気温にも配慮している。眠れない方は、職員と一緒に過ごす等している。昼間は疲労や体調に合わせて、休息をとってもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬情報を個別ファイルに保管し、薬の副作用や目的を確認できるようにしている。薬の変更時は職員間で共有し身体状況の変化に留意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や散歩、家事の手伝いができる環境を作り、季節に応じた行事、好物の差し入れをして貰う等している		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や通院等、個々に合わせた外出支援をし、季節ごとの行事を楽しんで頂けるようにしている	全体での外出行事は自粛しているが、個別に声掛けし、周辺の散策をしている。敷地内の花、菜園の管理や日常生活に運動を取り入れる等、職員は利用者の気分転換や心身の機能維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できない方は金庫で預かっている。管理できる方はお小遣い程度の金額を所持している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話したいと希望があった場合は電話できるようにしている。手紙も希望があれば代筆の支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から外を眺めたり、天気の良い日はウッドデッキで日光浴したりしている。また、季節に応じて飾り付けをしている	陽当たりの良いリビングを中心に、和める雰囲気づくりに留意して、大正・昭和の古民具の配置や季節に合わせた飾り付けをしている。また、温・湿度の管理や換気等、健康に配慮した空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置を個々に合わせ、入居者様同士楽しく会話したり、一人で落ち着いて過ごしたりと思いに過ごせるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団やタンス、仏壇等の家具を持ってきて貰ったり、写真や作品を飾る等、居心地よく安心できる部屋になるよう配慮している	居室には馴染みの家具や備品が自由に持ち込まれ、家族写真や手紙などを飾り、本人にとって居心地よい部屋となるよう努めている。状況に応じて居室内の配置等も随時見直しを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋には暖簾をかけたたり、トイレには札をかけたたりしている。共有箇所には、手すりを設置し、キッチンでは職員と一緒に安全に家事ができる		